

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	国語A	国語B
本校	70.0	53.0
広島県	73.0	59.0
全国	70.7	54.7

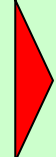
本年度の結果について

昨年度の各種学力調査結果から、ことわざの意味理解や辞書の利用など言語知識に関する問題に課題があった。また、要点の聞き取り、聞き方の工夫など聞き取りに関する問題の正答率も低い傾向があった。そこで次の2点を工夫して取組をおこなった。1点目は、言語知識に関する課題を改善するために、プリントなどの課題や普段の生活でことわざを使うなどことわざや故事成語などに触れさせる機会を増やしていった。2つ目は、朝会時やゲストティーチャーが来た時になど、話の要点や考えたことを本郷ノートに書かせたり、読み語りのときに本の内容クイズをしたりするなどして、話の要点を意識しながら聞く習慣をつけさせる取り組みをしてきた。その結果として、今回の全国学力・学習状況調査では、相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例をあげながら筋道を立てて話すことや日常生活で使われている慣用句の意味を理解し使う問題の正答率が90%を超え、成果があった。しかし、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめるなど書くことが課題として残った。



重点課題

- 国語A
- 自分の想像したことを物語に表現するために、文書全体の構成の効果を考える。(本校正答率 62.1%)
 - 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く。(本校正答率 34.8%)
- 国語B
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどしてまとめる。(本校正答率 37.9%)
 - 目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を考える。(本校正答率 50.0%)
 - 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。(本校正答率 22.7%)



標準学力調査に向けた重点取組

- 国語科の学習で、文章全体の構成をつかませるだけでなく、その効果について考えさせる場を設定していく。また、自分の書いた文章の文章構成の効果についても考える場を設定する。
- 朝学習の時間に、文章構成をつかませる問題に取り組む時間を設定する。
- 朝会時やゲストティーチャーなどの話を聞く際には、話し手の意図や目的を捉えながら聞かせるとともに、自分の考えと比較させながら聞き、本郷ノートに聞いた内容や自分の考えを主語と述語に注意して書かせる活動を設定する。

取組計画表

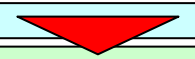
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で問題を解き、通過率の低かった問題の誤答分析を行う。 今後の取組についての周知 					標準学力調査実施	標準学力調査分析	
児童への取組	自分の意見を明確にした意見文を書く	国語科の学習を中心とした読解指導と文章構成の効果を考える場の設定						
		朝学習の時間のプリント学習						
			本郷ノートを利用した自分の考えを条件にしたがって書く指導			〈見取り〉標準学力 目標値 75%		

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	算数A	算数B
本校	63.0	47.0
広島県	66.0	54.0
全国	63.5	51.5

本年度の結果について

昨年度の各種学力調査結果から、図形の定義や性質は理解できているが、その定義や性質を利用して作図するなど関連付けて考えることに課題があった。また、目的に応じた計算の結果の見積もりにも課題があった。そこで次の2点を工夫して取組をおこなった。1点目は、図形の定義や性質を用いて作図をしたり、図形を正確に区別し整理し、図形の定義や性質を根拠に説明させたりする活動を行った。また、2点目として、授業の中で、実際の生活場面を取り上げ、買い物では切り上げ、空きかんなど収集では切り下げなど、切り下げ、切り上げ、四捨五入の使い分けについても話し合う学習を行った。その結果として、今回の全国学力・学習状況調査では、図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述することができた児童が多かった。しかし、単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味や小数の除法の意味についての理解や、直径の長さや円周の関係について単純化して考えるなど、数量についての知識・理解が課題として残った。



重点課題

算数A

- ・小数の除法の意味について理解している。(本校通過率 39.4%)
- ・単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している。(本校通過率 42.4%)
- ・直径の長さや円周の長さの関係について理解している。(本校通過率 47.0%)

算数B

- ・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈しそれを記述できる。(本校通過率 18.2%)
- ・棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる。(本校通過率 19.7%)

標準学力調査に向けた重点取組

- ・算数科の授業において、除法の計算を用いる際には、図や数直線を用い、数量関係を的確にとらえ、立式できるように指導を行っていく。
- ・チャレンジタイムや家庭学習などで、小数の除法の計算練習をくり返し行う。また、除法だけではなく、乗法や加法・減法の計算練習も繰り返し行うことで、四則計算が正確にできる力を身につける。
- ・割合や単位量当たりの学習の場面では、小数や分数など解の見通しをもたせるために、簡単な数を入れて計算するなど、単純化の考えを用い、その考え方のよさを実感させる学習を仕組む。
- ・算数科の学習において、グラフや表を用いて考える場面では、グラフや表の特徴を複数の観点で捉えて、情報を読み取ることができるようにする学習の場を設定する。また、目的に応じてグラフや表をつくらせたり、複数のグラフを関連付けて考えたりする場を設定する。



取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	・全職員で問題を解き、通過率の低かった問題の誤答分析を行う。					標準学力調査実施	標準学力調査分析	
児童への取組	図・式・言葉を関連付けながら説明をする場面を意図的に設定した授業							
	チャレンジタイムによる基礎的な学力の定着							
						〈見取り〉 標準学力 目標値 70%		

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	理科
本校	58.0
広島県	63.0
全国	60.3

本年度の結果について

昨年度の各種学力調査結果から、物の重さを比べる時、物質の体積をそろえて比較するという、条件制御の考え方に課題があった。また、太陽の動きに対する影のでき方について理解できていないことと記述が不十分で誤答になってしまうという課題があった。そこで次の3点を工夫して取組をおこなった。1点目は、算数科の「体積」の学習の際に、物の重さのはかり方について、「体積」に視点を置いた補充学習を行った。2点目として、理科の学習の中で、実験や観察を行う際に、変える条件と変えない条件について子どもたちで話し合わせ、条件制御の考え方を、再度、確認する授業を展開していった。3点目として、授業の中で、原因と結果、そこから得られる結論を述べる語形を、日々の授業のまとめや振り返りの時間を使って定着させていった。また、友達の発言から「友達がどのように考えているか」と言った思考のトレーニングを充実させていった。その結果として、今回の全国学力・学習状況調査では、より妥当な考えを創り出すために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できるなど活用の問題で正答する児童が多かった。しかし、実験の結果を基に分析して考察し、その内容を記述するという、記述式の問題について課題が残った。

重点課題

- ・より妥当な考えを創り出すために、実験結果をもとに分析して考察し、その内容を記述できる。(本校正答率 19.7%)
- ・太陽の日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったモノづくりに適用できる。(本校正答率 33.3%)
- ・物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる。(本校正答率 36.4%)

標準学力調査に向けた重点取組

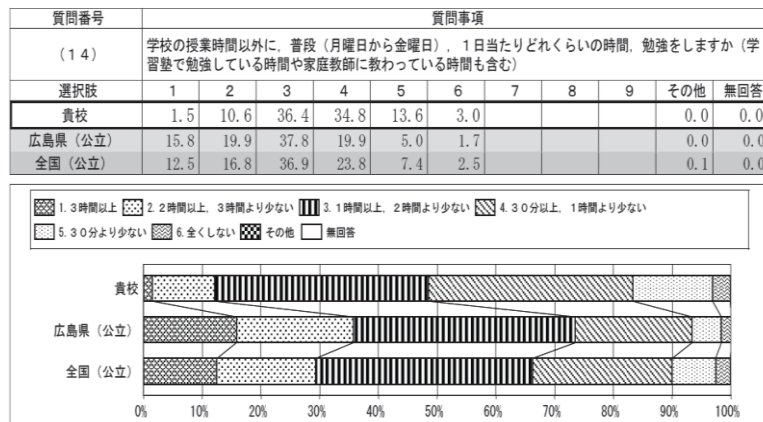
- ・理科の授業において、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにするために、観察や実験の結果を基に「事実」と「解釈」の両方を示しながら、説明させる場を設定する。
- ・理科の学習で実験を行う際には、既習を基にした実験方法を考えることができるよう、実験の目的や獲得した知識を実験に活用するかを明らかにするとともに、実験の結果が目的に合ったものになっているかを振り返り、設定した目的に対して、計測し、制御する学習活動を行う。
- ・理科の学習において、既習の内容や生活経験と関係付けて話し合う場を設定し、提示された自然の事物・現象を捉えることができるようにすることで、学んだことを自然の事物・現象に適用できるようにしていく。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	・全職員で問題を解き、通過率の低かった問題の誤答分析を行う。					標準学力調査実施	標準学力調査分析	
児童への取組		← 理科の授業において、説明する場の設定・目的を明確にした実験・既習や生活の場の結びつけを行う。 →						
						〈見取り〉 標準学力 目標値 65%		

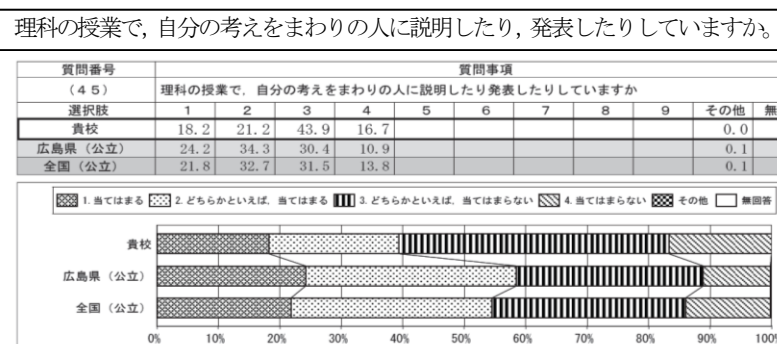
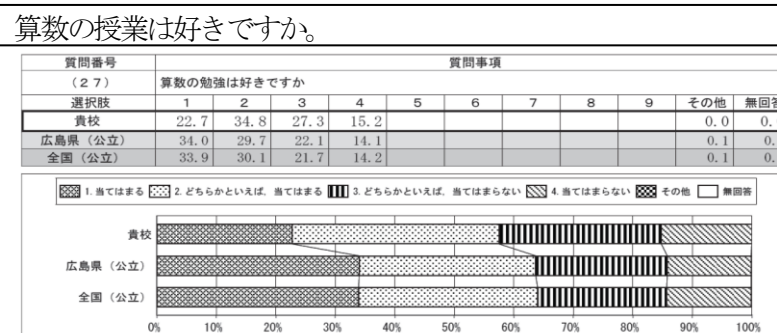
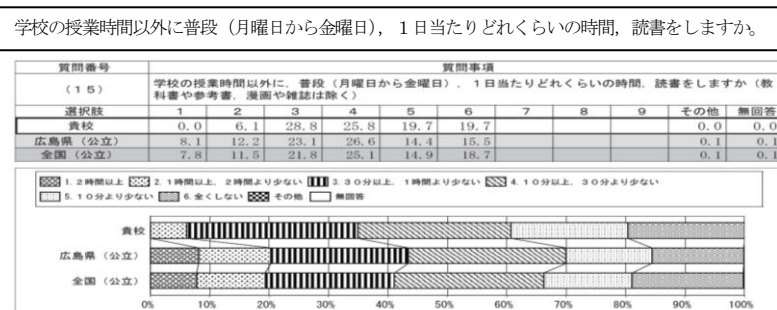
質問紙調査 (全国学力・学習状況調査：児童質問紙調査)

(1) 生活・学習



児童生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
家庭学習には、ほとんどの児童が取り組むことができているが、教師に出された課題のみを行うだけで、主体的な家庭学習になっていない。（現状値 62.1%）	家庭学習に、学習の予習・復習を行うための自主学習に取り組ませる。	2 3 4 5 6	75%	児童アンケートと教師による見取り	12月		

(2) 教科



児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
学習の中では、読書の時間を設定している。また、家族と一緒に読書をする取組（家読）に取り組んでいるが、家庭読書の習慣はまだ定着していない。（現状値 全くしない 19.7%）	家庭と連携した家読の取組の充実と学級文庫の充実を図る。	1 2 3 4 5 6	5%以下	児童アンケート調査と読書カードの記入と家読カードの記入状況	12月		
算数科の学習に苦手意識をもっている児童が多い。理由としては「分からない」から好きではないということだった。（現状値 57.5%）	児童が「できた」「分かった」と感じられる授業改善を行う。	1 2 3 4 5 6	70%	児童アンケート調査	12月		
グループでの活動では、意欲的に友達とかかわり合うが、全体交流になると発言できない児童が多くいる。（現状値 39.4%）	児童同士で関わり合う授業の展開を行う。	3 4 5 6	70%	児童アンケート調査	12月		